

# 指導主事訪問（国語，数学）

令和元年9月13日（金）

秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事

山口 晃正先生

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事

田口 匡浩先生 をお迎えして



時間帯	内容	担当教員		場所
9:45～10:35	1年B組「国語」 研究授業	授業者	菊池 嘉隆	1B教室
	2年A組「数学」 研究授業	授業者	齋藤 明 赤川 嗣昭	2A教室
10:50～11:40	研究協議「国語」	教頭，栗山，澁江，山内 瀧澤，佐藤雄，加藤		コンピュータ室
	研究協議「数学」	校長，佐藤智，瀬田川，井合 佐藤雅，新田，田中		ミーティング ルーム





# 研究協議会について

令和元年9月13日（金）

10:50～11:40

【国語】 コンピュータルーム 司会：栗山 記録：瀧澤

・研究協議次第

- 1 指導者紹介
- 2 研究協議
  - (1) 授業者から 5分
  - (2) 授業についての協議 30分
  - (3) 指導助言 15分

・授業参観・研究協議の視点

- 1 ねらいを達成するために、「学び合い」は効果的であったか。
- 2 「学び合い」によって生徒の変容は見られたか。

・指導者 山口 晃正 指導主事

・参加者

授業者 菊池 嘉隆  
栗山, 澁江, 山内, 瀧澤, 佐藤雄, 加藤, 教頭

【数学】 ミーティングルーム 司会：佐藤智 記録：新田

・研究協議次第

- 1 指導者紹介
- 2 研究協議
  - (1) 授業者から 5分
  - (2) 授業についての協議 30分
  - (3) 指導助言 15分

・授業参観・研究協議の視点

- 1 ねらいを達成するために、「学び合い」は効果的であったか。
- 2 「学び合い」によって生徒の変容は見られたか。

・指導者 田口 匡浩 指導主事

・参加者

授業者 齋藤 明, 赤川 嗣昭  
佐藤智, 瀬田川, 井合, 佐藤雅, 新田, 田中, 校長

# 第1学年B組 国語科学習指導案

指導者 菊池 嘉隆  
場所 1年B組教室

## 1 教材名 星の花が降るころに

## 2 目標

- (1) 作品の面白さを味わい、作品の魅力について自分の考えを説明しようとしている。  
【関心・意欲・態度】
- (2) 登場人物の行動や情景描写から心情を読み取り、作品の理解に役立てることができる。  
【読むことウ】
- (3) 比喩などの表現や言葉の象徴性について、叙述に注意しながらそれらの意味するところや効果について自分の考えをもつことができる。  
【読むことエ】
- (4) 語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味をとらえて表現の工夫を味わっている。  
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（イ）】

## 3 生徒と教材

### (1) 生徒について

7月に行った学習アンケートの結果によると、「国語が好きだ」と答えた生徒の割合はおよそ74%であり、全体的に楽しんで授業に取り組んでいる様子が見える。国語が苦手な生徒でも、やり方やヒントを与えれば前向きに取り組もうとする生徒が多い。

物語の読解については、教材「花曇りの向こう」を使って人物の行動だけでなく情景描写からも心情を読み取れること、主人公は何かのきっかけで変わり、それが主題に大きく関わること、作中に出てくる「梅干し」のような語句が作品の中で特別な意味や役割をもって描かれており、それが作品に深みを与えていることなどを学んできた。まだそういう読み方が定着しているわけではない。

話し合い活動については意欲的に取り組み、自分の考えを述べることに抵抗を感じない生徒が多いが、自分の考えの根拠となるものを明確に示したり、理由を示して論理的に説明したりするには至っていないのが現状である。

### (2) 教材について

本教材「星の花が降るころに」は、中学1年生の主人公が小学校時代からの親友であった夏実と仲違いし、関係を修復することができずに孤独感を味わい傷つくが、他者との関わりや銀木犀について誤解していたことがわかったことにより、自分を成長させ、新たな一歩を踏み出すまでの過程が、平易な文章でわかりやすく描かれている作品である。登場人物とは同じ年齢であることもあり、生徒は共感をもちやすい作品であろうと思われる。また、情景描写の巧みさや会話文の奥深さ、臨場感溢れる独特な比喩表現、「銀木犀」のもつ象徴性などが作品の展開に綿密に関連づけられており、細かな表現の一つ一つに注意して読むことで、物語作品の面白さや魅力を知るにはうってつけの作品であると思われる。

### (3) 指導にあたって

以上を踏まえ、本教材では様々に工夫され、計算されたや描写・表現が物語の展開や人物の心情と大きく関わっている作品であるということに気付かせたいと考えた。そこで、細部の表現にこだわって読み、最終的に作品の魅力について各自が自分の言葉で説明するという学習過程を設定した。初読の段階では、たとえば「戸部君がおもしろい」程度の感想しかもたない生徒もいると予想されるが、展開に沿って戸部君の行動や会話について細かく考えていくことで、具体的な叙述を取り上げて「彼の言葉には実は深い意味が隠されていた」（本人は意識していないにせよ）とか、「戸部君は考えていたよりもずっと大人だった」とかいったような、新たな発見や気付きがあるようにしたい。そういう読み方ができたとき、生徒は物語の面白さ、魅力というものを感じるだろうと考える。言葉のもつ象徴性や人物設定、構成の仕方、比喩表現など、さまざまな工夫を読み取らせた上で、学習したことのまとめとして自分の考える作品の魅力を語らせたい。このような活動を通して物語作品を分析的に読む力を付けさせたいと考えている。今回の学習を通して物語をより深く、より面白く読むための契機にさせたい。

また、話し合い活動においては、生徒の実態を踏まえて自分の考えの根拠となるものは文中のどの表現か、その根拠を基にどう理由付けしたのかを意識させることで、言葉に対する意識を高めると同時に、論理的に話す力を身に付けさせたいと考えている。

### (4) 本校研究主題との関わり

～ 本校研究主題 ～  
「生徒が『わかる、できる、楽しいと実感できる授業』の実践」  
～ 「つなぐ」を意識した学び合いを生かす授業の追究～



～ 国語科の研究主題 ～  
学び合いを通して思考力・判断力・表現力を高める国語教育

本校の研究主題である『わかる、できる、楽しいと実感できる授業』を、国語科では学び合い（互いに考えを伝え合うことで新しい考え方に気付いたり、それまでの自分の考えをより深めたりすること）を通して文章の内容や表現の仕方に注意して読む力と論理的に話す力を身に付け、新たな学習意欲を喚起できる授業ととらえている。各自が自分の考えをもつためには、根拠とすべき部分を文中から探し出しそれを基に論理的に理由を構築する力が必要である。言葉の意味を吟味し問い直すことで新たな気付きができるよう、言葉の細部にこだわって考えさせたい。生徒が他の表現に直したり比較して違いを考えたりすることで、言葉に対する細やかな感覚も磨いていけるようにしたい。

4 指導計画（6時間扱い 本時5／6）

単元の評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】
・作品の面白さを味わい，作品の魅力について自分の考えを説明しようとしている。	・)登場人物の行動や情景描写から心情を読み取り，作品の理解に役立てている。【読むこと ウ】 ・ 比喩などの表現や言葉の象徴性について，叙述に注意しながらそれらの意味するところや効果について自分の考えを説明している。【読むこと エ】	・ 語句の辞書的な意味を踏まえ，文脈上の意味をとらえて表現の工夫を味わっている。【伝国 イ（イ）】

単元の流れ

次	目 標	時間	主な学習活動【主となる活動形態】	評価規準と評価方法
1	・ 感想を基に学習課題を設定し、学習の見通しをもつことができる。	1	・ 単元を通して作品の魅力や価値について読み味わうことを確認する。 ・ 印象に残ったところや作品の面白いところについて考えを交流し，学習課題を設定する。 【個】【全体】	・ 意欲的に作品の魅力を見いだそうとしている。 【関心・意欲・態度】 （観察 シート） ・ 学習課題を理解し，単元を通して学習することを理解している。 【関心・意欲・態度】 （観察 シート）
2	・ 主人公の行動や情景描写を基に，主人公の心情の変化を読み取ることができる。	1	・ 場面ごとに心情がわかる表現を抜き出し，主人公の心情について自分の考えをもつ。【個】 ・ お互いの考えを交流し，主人公の心情について考えを深める。 【グループ】	・ 話し合いを通して，主人公の心情について新たに気付いたことや考えが深まったことを書いている。 【読むこと ウ】 （観察 シート）
		1	・ 主人公の変化をとらえ，主人公を変えたものは何か話し合う。 【グループ】【全体】	・ 主人公を変えたものについて，理由を添えて説明できている。【読むこと ウ】 （シート 発表）
3	・ 比喩等の表現している内容と意味や効果について理解することができる。	1	・ 気持ちや情景を効果的に表現されている箇所を抜き出し，表現されている内容とその効果について考える。【グループ】【全体】	・ 表現の特徴や意味するものについて，自分の考えを書いている。【読むこと エ】 【伝国 イ（イ）】
4 本時	・ 銀木犀が象徴するものについて自分の考えを説明することができる。	1	・ 銀木犀についてそれぞれの場面でどう表現されてるかに注目し，作品内での意味についてお互いの考えを交流する。 【個】【グループ】【全体】	・ 銀木犀が象徴するものについて，理由を添えて自分の考えを書いたり発表したりしている。 【読むこと エ】 （シート 発表）
5	・ 作品の魅力について，自分の考えをまとめることができる。	1	・ これまでの学習を参考にし，作品の魅力について自分の考えを200字程度の文章にまとめて紹介し合う。【個】【全体】	・ 他の人の考えも生かしながら自分の考えを書いている。 【読むこと エ】 （発表 シート）

## 5 本時の学習（5／6時間）

### （1）目標

作品内で「銀木犀」が表すものについて、「銀木犀」に関わる叙述を比較しながら自分の考えを説明することができる。 【読むこと エ】

### （2）学習過程

	学 習 活 動	○教師の支援 <span style="float: right;">【評価の観点】（方法）</span> ■努力を要する生徒への手立て
導入 5分	1 本時の課題を確認し、自分の考えをもつ。	○前時までの学習を振り返り、物語の展開や主人公の変化を確認する。
	作品において「銀木犀」はどんな意味をもっているだろうか。	
展開 40分	2 「銀木犀」についての叙述を抜き出し、比較しながら「銀木犀」の作品内での意味について各自の考えをもつ。 <span style="float: right;">【個】</span>	----- 注目させたい叙述 ----- ○甘い香り→なくなる、縮んで色あせる ○木に閉じ込められた→くぐって出た ○葉はずっと落ちない→新しい葉を生やす ○お守りみたいな、丸屋根の部屋、秘密基地 半円球の宙にまたたく星
	3 お互いの考えを交流し、銀木犀についての解釈をまとめる。 <span style="float: right;">【グループ】</span> ----- 期待したい反応 ----- ○二人（主人公）を守るもの ○主人公を導くもの ○二人の関係 ○花びらは二人の関係を表し、銀木犀の木は主人公を守り導くものを表す	■どの叙述に着目していいかわからない生徒には、教師側が着目すべき叙述について提案し、物語の展開と関連させて考えるように促す。 ○叙述が探しやすいようにシートを工夫する。
	4 グループで話し合ったことを全体で共有し、深化を図る <span style="float: right;">【全体】【個】</span>	【読むこと エ】（発表 シート） 他者の考えも参考にしながら、叙述を根拠にして銀木犀の作品内での意味について説明できている。
終末 5分	5 次時の学習について確認する。 <span style="float: right;">【個】</span>	○どの観点で作品の魅力を書くか、数人に発表してもらおう。

## 第2学年A組 数学科学習指導案

場 所：大仙市立西仙北中学校2年A組教室  
指導者：教諭 齋藤 明  
教諭 赤川 嗣昭

### 1 単元名 一次関数

### 2 生徒に働かせたい「見方・考え方」と目指す生徒の姿

二つの数量についての変化や対応の様子に着目し、式、表、グラフを適切に選択して表現したり、具体的な場面で一次関数の活用を考えたりすること



一次関数についての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、具体的な事象において一次関数を活用して問題解決をしている姿

### 3 生徒と単元

#### (1) 生徒について

7月に実施した学習アンケートでは、数学が好きですかという問いに67.9%の生徒が「好き」「どちらかといえば好き」と答えている。グループ学習などの場面では、生徒が互いに答えや考え方を伝え合ったり、分からないところを教え合ったりする様子が見られる。しかし、日常生活と数学の関連を実感できていない生徒が30%ほどいる。

本題材の導入にあたり実施したレディネステストの結果は右のとおりであった。座標に関しては概ね理解しているが、一方の値を決めれば他方の値がただ一つ決まるという関数関係の意味の理解が定着していない生徒が多く見られた。また、比例のグラフ、条件から式を求めること、変域を求めることへの理解は十分ではない。

前学年までの関数(比例、反比例)の学習が定着している生徒もいるが、個人差が大きいことから、個に応じた支援が必要である。

番号	項 目	正答率
1	座標の意味。	89%
2	平面上の点を座標で表す。	93%
3	yがxの関数であることの意味。	52%
4	反比例の式を求める。	37%
5	比例の関係をグラフで表す。	41%
6	比例の関係で対応する値を求める。	41%
7	反比例のグラフの特徴。	93%
8	変域を求める。	11%
9	具体的な事象における比例の関係を式で表す。	15%

#### (2) 単元について

本単元は、学習指導要領第2学年[C 関数](1)「一次関数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」の「ア 次のような知識及び技能を身に付けること。(ア) 一次関数について理解すること。(イ) 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知ること。(ウ) 二元一次方程式を関数を表す式とみること。」「イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。(ア) 一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること。(イ) 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。」に当たるものである。

第1学年では、具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べ、関数関係について理解し、比例、反比例を関数として捉え直した。そこでは、変数と変域や座標について理解するとともに、比例、反比例の関係を表、式、グラフなどで表し、それらを関連付けながら変化や対応の特徴を考察することや、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することを学習している。第2学年では、第1学年と同様に具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して、一次関数について考察する。これらの学習を通して、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。一次関数の学習は比例の学習の発展である。さらに、一次関数を学習することで、より広範囲の具体的な事象を扱うことが可能になった。同時に、変化の割合に着目するなど、文字を用いた式によって関数をより深く学習する入り口ともなっている。

#### (3) 指導について

単元の前半では、関数の関係を表すために表、式、グラフを用いることや、それらを用いて正しく処理する技能をしっかりと身に付けさせることが必要である。指導にあたっては、レディネステストの結果を踏まえ、比例や反比例の式やグラフを想起させ、それらと比較しながら学習をすすめることで確実に習熟できるようにする。

単元の後半では、表、式、グラフを相互に関連付けて考えながら、それぞれのよさについて比較・検討する場面を設定することで、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択し表現することができるようにする。



また、自力解決の時間を保障し、自分の考えをもたせてからペアやグループ、全体で話し合う活動を行う。その際、話し合いの目的と視点を明確にすることで、短時間で互いの考えを交流し、思考が深まるようにする。授業の終末には評価問題を実施し、本時のねらいが達成されているかを確実に見取り、必要に応じて補充学習等の支援を行うことで学習内容の確実な定着を図る。

#### 4 本時の展開 (8 / 20)

##### (1) 本時のねらい

直線の傾きと通る1点の座標から、条件を満たす一次関数の式を求めることができる。

##### (2) 展開

主な学習活動 <input type="checkbox"/> 生徒の姿	形態	◇教師の支援 ●つまずきの見られる生徒への手立て 評価規準と方法【観点】[方法]
1 問題を把握する。	一斉	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>問題</b> <math>y</math> が <math>x</math> の一次関数で、そのグラフの傾きが3で、点 (1, 4) を通るとき、この一次関数の式を求めてみよう。         </div>		
2 学習課題を設定する。	一斉	◇分かっていること、求めることを確認し、学習課題につなげる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>学習課題</b> 傾きと1点の座標から、一次関数の式を求めるにはどうすればよいか。         </div>		
3 問題に取り組む。 <input type="checkbox"/> $y = ax + b$ に傾きと点の座標の $x, y$ を代入して式を求める。 <input type="checkbox"/> 表をかいて、 $x = 0$ のときの $y$ の値 (切片) を出して、式を求める。 <input type="checkbox"/> グラフをかいて、切片を読み取り、式を求める。	個  ペア  交流	◇課題解決の見通しをもつことができるように、式、表、グラフの言葉を引き出す。  ◇自力思考の時間を確保する。  ●机間指導によりクラス全体の理解度を把握し、分からない生徒やペアには、分かる生徒や教師に聞くように声をかける。
4 求め方について確認する。	一斉	◇一次関数についての理解を深めるために表、式、グラフの解法を確認し、それぞれのよさについて発表し合う場面を設定する。
5 まとめる	一斉	◇式、表、グラフを使った解き方の共通点に着目し、まとめにつなげる。  ◇自分の言葉でまとめを記入させ、その後全体でまとめる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>まとめ</b> 傾きと1点の座標から、一次関数の式を求めるには、与えられた条件を利用して <math>b</math> (切片) を求めればよい。         </div>		
6 適用問題に取り組む。	個	●つまずいている生徒に個別に支援する。
7 評価問題に取り組む  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>評価問題</b>  <math>y</math> が <math>x</math> の一次関数でそのグラフの傾きが-4で、点 (2, -3) を通るとき、この一次関数の式を求めなさい。         </div>	個	◇机間指導しながら丸付けをし、状況を確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             直線の傾きと通る1点の座標が分かっているときの一次関数の式を求めることができている。  <b>【知②】</b> [評価問題]           </div>
8 振り返りをする。	個 ↓ 一斉	◇生徒の変容や新たな疑問を文章で振り返らせた後、数名に発表させ、全体で共有する。

5 単元の目標と指導計画及び評価の計画

(1) 単元の目標 (育成する資質・能力)

知識及び技能	思考力, 表現力, 判断力等	学びに向かう力, 人間性等
<p>【知①】事象の中には, 一次関数として捉えられるものがあることや一次関数の表やグラフ, 式の関連などを理解する。</p> <p>【知②】一次関数の関係を, 表やグラフ式などを用いて的確に表したり, 数学的に処理したりする。</p> <p>【知③】二元一次方程式を関数関係を表す式とみてグラフに表す。</p>	<p>【思①】一次関数として捉えられる二つの数量について, 変化や対応の特徴を見だし, 表, 式, グラフを相互に関連付けて考察し表現する。</p> <p>【思②】一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現する。</p>	<p>【学①】様々な事象を一次関数として捉えたり, 表やグラフ, 式などで表したりするなど, 数学的に考え表現することに関心を持ち, 主体的に問題を解決しようとする。</p> <p>【学②】意欲的に既習事項を問題の解決に活用して取り組んだり, その取組を振り返ったりする。</p>

(2) 単元の指導計画及び評価の計画 (20時間)

時数	○主な学習活動	◇教師の支援[☆資質・能力]	主な評価規準【観点】[方法]
1	○具体的な事象のなかの二つの数量の間の関係を調べ, 比例でも反比例でもない関数があることを知る。	◇一次関数の事象を表やグラフで表し, 比例と反比例の学習を振り返りながら, 比較させる。 【知①】	○具体的な事象のなかの二つの数量の間の関係を調べ, 比例でも反比例でもない関数があることを理解している。【知①】 [評価問題]
2	○一次関数の意味を理解し, 一次関数の関係を $y = ax + b$ の式で表す。	◇具体的な事象から $x$ に比例する部分と定数の部分を確認させる問いかけをし, $y$ はその和で表せることおさえる。【知②】	・具体的な事象のなかにある2つの数量の関係を一次関数の式で表している。 【知②】 [評価問題]
3	○一次関数 $y = ax + b$ では, 変化の割合が一定で $a$ に等しいことを理解する。	◇対応表に $x$ や $y$ の増加量を記入させながら, 区間を変えて変化の割合を求めさせることで, 変化の割合 $a$ が常に一定であることに気付かせる。【知②】	・二変数の増加量をもとにして, 一次関数の変化の割合を求めている。また, 変化の割合が一定で $a$ に等しいことを理解している。 【知②】 [評価問題]
4	○一次関数のグラフは直線になることを知り一次関数と比例の関係をまとめる。	◇座標を細かくとり, 直線になること理解させる。また, 比例のグラフをもとに $y = ax + b$ は $y = ax$ を $y$ 軸の正の方向に $b$ だけ平行移動させた直線であることをおさえる。【知②】	・一次関数のグラフの特徴を, 比例のグラフと比較したり, 変化の割合と関連付けたりしながら直線あることを理解している。 【知①】 [評価問題]
5	○一次関数の変化の割合は, グラフの傾きを表わしていることを知る。	◇一次関数の変化の割合は, グラフでは $x$ が右に1だけ進むとき $y$ が上下にいくつ進むのかを表し, グラフの傾き $a$ は $a$ によって決まることをおさえる。また, 傾きや切片についてもおさえる。【知①】	・一次関数のグラフの傾きや切片の意味を理解している。【知①】 [評価問題]
6	○一次関数の表, 式, グラフの関係, 一次関数の増減とグラフの特徴をまとめる。	◇変化の割合(グラフの傾き)と切片を表, 式, グラフの三者を相互に関連付けてまとめさせる。また, $a > 0$ , $a < 0$ のときの一次関数の増減などを一般化してまとめさせる。【知②】	・一次関数のグラフの特徴を理解している。 【知②】 [評価問題]
7	○一次関数のグラフを, 切片や傾きを基にかく。 ○一次関数のグラフをもとに, $x$ の変域に対応する $y$ の変域を求める。	◇切片にあたる $y$ 軸上の点から右へいくつ進み, 上(下)にいくつ進むかで2点を決めてグラフをかくように指導する。【知②】 ◇事象に即して変域を設けたり, 見いだしたりすることができるようグラフと関連付けて指導する。【知②】	・傾きと切片から2点を決め, 一次関数のグラフをかくことができている。 【知②】 [評価問題] ・グラフをもとにして一次関数の変域を求めることができている。【知②】 [評価問題]
8 本時	○グラフの傾きと通る1点から, 一次関数を求める。	◇グラフの傾きと通る1点をもとに, $b$ (切片) を求めるために, 表, 式, グラフに立ち返って考えさせる。【知②】	・直線の傾きと通る1点の座標が分かっているときの一次関数の式を求めることができている。【知②】 [評価問題]

9	○グラフが通る2点から、一次関数を求める。	◇二つの $x$ 座標と $y$ 座標から増加量がとらえられることに注目させ、 $a$ の値を求め、前時の学習内容につなげる。また、2組の $x, y$ の値から、 $a, b$ を連立方程式で求め一次関数が求められることをおさえる。【知②】	・グラフが通る2点から、一次関数を求めることができる。【知②】 [評価問題]
10	○二元一次方程式が、式を変形してできる一次関数のグラフになっていることを理解する。	◇二元一次方程式を満たす $x, y$ の値の表をつくり、変化の割合（傾き）や切片に気付かせ、 $y$ について解けば一次関数と同じになることをおさえる。【知③】	・二元一次方程式が、式を変形してできる一次関数のグラフになっていることを理解している。【知③】 [評価問題]
11	○二元一次方程式のグラフをかく。	◇式に $x=0, y=0$ を代入し $x$ 軸、 $y$ 軸上の2点の座標からグラフがかけることをおさえる。【知③】	・二元一次方程式のグラフをかくことができる。【知③】 [評価問題]
12	○二元一次方程式 $ax + by = c$ で、 $a=0$ や $b=0$ の場合のグラフをかく。	◇ $x=k$ や $y=k'$ が表す点の集合を考えさせることで $y$ 軸、 $x$ 軸に平行な直線になることに気付かせる。【知③】	・二元一次方程式 $ax + by = c$ で、 $a=0$ や $b=0$ の場合のグラフをかくことができる。【知③】 [評価問題]
13	○連立方程式の解を、二つの二元一次方程式のグラフをかいて求めたり、2つの二元一次方程式のグラフの交点の座標を、連立方程式を解いて求めたりする。	◇グラフの交点がそれぞれの方程式の解の共通の部分であることに気付かせ、連立方程式の解との関連についておさえる。【知③】	・連立方程式の解を2直線の交点座標から求めたり、座標平面上の2直線の交点の座標を連立方程式を解いて求めたりしている。【知③】 [評価問題]
14 15	○具体的な事象のなかの二つの数量の間の関係を一次関数とみなして、問題を解決する方法を説明する。	◇具体的な事象を一次関数とみなすこと（理想化・単純化）で、問題の解決に表、式、グラフで表現し考察することの有用性について考えさせる。【思①】	・具体的な事象を一次関数とみなして考察し、問題解決の方法について説明している。【思①】 [評価問題] ・意欲的に既習事項を問題の解決に活用して取り組んだり、その取組を振り返ったりしている。【主②】 [観察・振り返りシート・ノート の記述]
16	○一次関数のグラフを利用して、身のまわりの問題を解決する。	◇グラフを読み取ったり、新たなグラフをかき加えることで交点の意味などについて考えさせる。【思②】	・一次関数のグラフを利用して、身のまわりの問題を考察し表現している。【思②】 [評価問題]
17	○図形の辺上を動く点によってできる図形の面積の変化を、一次関数の式やグラフで表す。	◇問題把握のため、動画を提示する。また、 $x$ や $y$ の変域、面積が一定であることを表す式やグラフについておさえる。【思①】	・図形の辺上を動く点によってできる図形の面積の変化を、一次関数の式やグラフで表わし、問題を解決している。【思①】 [評価問題]
18 19 20	○問題練習に取り組み、学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	◇学習内容の定着度や理解度などを見取り、必要な学習内容の補充を行ったり、発展的な問題を提示したりする。【学①】	・様々な事象を一次関数として捉えたり、表やグラフ、式などで表したりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、主体的に問題を解決しようとしている。【主①】 [確認問題・振り返りシート・ノート の記述]

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知①】事象の中には、一次関数として捉えられるものがあることや一次関数の表やグラフ、式の関連などを理解している。</p> <p>【知②】一次関数の関係を、表やグラフ式などを用いて的確に表したり、数学的に処理したりしている。</p> <p>【知③】二元一次方程式を関数関係を表す式とみてグラフに表している。</p>	<p>【思①】一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現している。</p> <p>【思②】一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現している。</p>	<p>【主①】様々な事象を一次関数として捉えたり、表やグラフ、式などで表したりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、主体的に問題を解決しようとしている。</p> <p>【主②】意欲的に既習事項を問題の解決に活用して取り組んだり、その取組を振り返ったりしている。</p>

# 校舎配置図

